

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第1号

令和3年7月7日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同4学年部長 権正 倫範

【提案日時】

6月16日（水）

提案 岡崎 巨樹 先生（菊名小）

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 権正 倫範 先生（牛久保小）

記録 伊藤 夏芽 先生（永野小）

単元名：『当たり前じゃない！わたしたちの水』

提案者より

- ・視点①「子どもの予想と見通しを大切にしたい単元づくり」の提案
- ・学習計画の立て方
→日常生活にある「当たり前」から「意外性」を見つける。
普段の蛇口から出てくる水とろ過前の水を見せたり、使っている量をペットボトルに入れたりして、子どもの驚きや疑問を出し合う⇔学習問題、計画が成立していく。
- ・実物を見せるときには、意図をもって選ぶ。実物を見せることによって、子どもたち同士の対話も広がっていく。→主体的になる。

協議内容

学習調整をする姿の生かし方

- ・毎時間の振り返りを行う。「よく分かった」「びっくり」「なるほど」など、振り返りの視点をもたせ、具体的な言葉を用いて書く。子どもたちの振り返りから次の時間の学習問題を考えたり、予想を考えたりする。
→それぞれの振り返りが見られるように、座席表に記入して、子どもたちに配付する。
→合意形成しながら、学習問題を考えることができる。

<講師の先生より>

4学年世話人校長 洋光台第一小学校 中村 智先生
上瀬谷小学校 大竹 貴子先生

- ・人権感覚を養いながらの授業づくり
子どもたちの「かわいそう」「悲しい」という発言を大切にしながらも、「生きていくうえで必要なこと」などと話しながら授業を進める難しさがある。→子どもの思いをくみ取る。
- ・自分たちと重ね合わせた学習問題作り
日頃の自分たちの生活や地域に目を向けて、学習問題・学習計画をたてることで視野が広がる。
→今後の自分たちの生活に繋がる。学んだことをこれからに生かせる授業づくりに努めていくとよい。

文責 遠藤 泰樹 （ 矢部小学校 ）